教育振興運動推進事業

自治体名

岩手県八幡平市

学校数

小学校　10校　中学校4校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

当市は岩手県の内陸北部に位置しており、人的被害はなかったものの、倒壊1棟を含む建築物被害が多数あった。道路の陥没1カ所、亀裂3カ所。ライフライン（電気、水道、電話）復旧：3/15。（仮設住宅数：0）

＜取組名＞　～能楽ワークショップ～

取組概要

実施形態（該当に○）	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	（連携している団体等・大学の名称）
	○			
実施主体・場所等	**コーディネーター数**	**ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ延べ人数**	**年間実施日数（回数）**	**活動場所**
				浅沢神楽伝承館

活動内容

※該当する内容に○

学校支援	学習支援	部活動指導	美化・環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					（　　）
学校と地域の協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化・芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
			○		（　　）
放課後等支援	学習支援	体験・交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
					（　　）
家庭教育・保護者支援	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
					（　　）
地域課題に応じた学習・交流	高齢者支援・世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
					（　　）

【体験講習会（ワークショップ）】

対　象：市無形民俗文化財に指定されている地域の伝統芸能団体で、保存・継承活動に取り組んでいる児童・生徒

ねらい：日頃取り組んでいる伝統芸能とは異なる「能楽」の世界に触れることで、活動意欲を喚起する。

内　容：児童・生徒をはじめ、保護者や地域の方々、行政の担当者など、教育振興運動を形成する「5者」が積極的に参加し、日頃体験することのない能楽の世界に親しむことにより、地元地域の文化を改めて見直す大きな契機となった。

取組の変遷

準備段階

◇被災による課題

・当市においては震災による大きな被害はなかったが、姉妹都市である宮古市をはじめとした被災地への支援や被災者との交流等を通じて、県全体としての復旧復興を目指している。

・平成 25 年 9 月には、台風 18 号の豪雨と強風により当市も大きな被害を受けた。また、今後も火山活動や雪害等様々な自然災害が発生する可能性がある。防災という視点からも震災以前より課題となっていた地域コミュニティの再生に継続的に取り組む必要がある。

・地域コミュニティを支える大きな要素であった各地域の伝統芸能伝承活動が衰退している。

◇住民等からの要望・必要な取組

・地域の伝統芸能団体から、指導者を含め後継者の育成が重要との声があった。

・活動する団体の組織化が必要。

・特色ある施設「神楽伝承館」を活用した事業の実施の要望。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

・児童・生徒を含めて活動をしている伝統芸能（無形民俗文化財指定）の保存・継承を行っている団体。

・特色ある「神楽伝承館」を持つ地元の住民団体。

・日頃触れる機会の少ない能楽（師）。

◇取組の充実や課題解決のための工夫

・能楽を観るだけでなく、実際に体験する機会を設けた。

・指導、体験を一体的に事業化した。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

・伝統芸能指導者育成事業に参画する伝統芸能団体が増えるなど、当市における伝統芸能伝承活動の活性化及び各団体の指導体制確立に一定の成果を果たした。

・能楽ワークショップを2年継続して実施し、普段馴染みの薄い伝統芸能に触れ合う機会を提供することで、より多くの児童・生徒に対し活動意欲を喚起することができた。

◇課題や今後の展望

・指導者育成の継続。

・児童・生徒への体験機会提供の継続。